

1. 実況上の着目点

- ① 九州の南に低気圧があって東進。日本の東には高気圧があって東へ移動。西日本～東日本の太平洋側では低気圧周辺及び高気圧縁辺の下層暖湿気の影響で大気の状態がやや不安定となっており、1時間に10mm前後の降水を解析している所がある。また、黄海には500hPa 5640m付近に-21℃以下の寒気を伴うトラフがあって東南東進。
- ② 沿海州に低気圧があって東進。北海道では日本の東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、風が強くなり、波が高くなりしけの所がある。
- ③ モンゴル付近には、500hPa 5340～5460mのトラフがあって-33℃以下の寒気を伴って東南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は九州の南～四国の南を東北東進。12日夜には東海道沖に進み、その後不明瞭となる。西日本～東日本の太平洋側では、低気圧周辺や高気圧縁辺の850hPa θ e318K以上の下層暖湿気や1項①のトラフの影響で大気の状態が不安定となる。西日本～東日本の太平洋側では、12日ははじめにかけて落雷や突風、降ひょうに注意。また東日本では、低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、12日夜以降、風が強くなり、波が高くなる所がある。12日～13日は強風や高波に注意。
- ② 1項②の低気圧は11日夜はオホーツク海に進む。北海道では11日夜にかけて強風や高波に注意。
- ③ 1項③のトラフは、12日は切離して寒冷渦となって中国東北区を東進し、寒冷渦を回る500hPa5340～5460mのトラフが夜に沿海州に進む。トラフに対応する低気圧が12日夜までに沿海州付近に発生し、13日は発達しながら日本海北部～オホーツク海に進む。低気圧に向かって下層暖湿気が流入するため、東日本～北日本の日本海側を中心に大気の状態が不安定となる所がある。東日本～北日本では日本海側を中心に12日～13日ははじめにかけて落雷や突風、降ひょうに注意。また別の低気圧が13日朝までに日本の東に発生し、前線を伴って東北東進する。北日本では、低気圧の影響で13日は気圧の傾きが大きくなり、風が強まり、波が高くなるため、強風や高波に注意。また沿海州から日本海北部を東北東進する低気圧に向かって暖気（850hPa気温は西日本～東日本では6℃以上、北日本で0℃以上の平年よりも10℃前後高い）が流入する。西日本～北日本の積雪の多い所では13日にかけてなだれに注意。
- ④ 500hPa 5760m付近の強風帯に対応して、前線（850hPa9～12℃）が12日朝までに華中で顕在化し、12日夜にかけて東シナ海にのび、13日は日本の南にのびる。南西諸島では、13日は前線に向かって高気圧縁辺の850hPa θ e321K以上の下層暖湿気が流入して大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降る所がある。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。②降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③波浪(明日まで)：北海道4、伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。